

JOCオリンピック教室

令和7年12月12日
スポーツ振興課 乾
内線 4383
外線 225-1394

「JOC オリンピック教室」を実施します

公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）がオリンピック・ムーブメント推進事業の一つとして、教育機関等に協力をいただき実施している JOC オリンピック教室を石川県珠洲市、輪島市にて実施いたします。

JOC オリンピック教室とは、オリンピック出場選手（オリンピック）が教師役となり、オリンピック自身の経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、その価値がオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かせることを授業（運動+座学）を通して学習してもらうことを目的に実施しています。

【概 要】

- 期日/場所：** 令和7年12月18日（木）
珠洲市立緑丘中学校（石川県珠洲市野々江町6-1）
令和7年12月19日（金）
輪島市立輪島中学校（石川県輪島市河井町11丁目39-1）
- 名 称：** JOC オリンピック教室（特別編）
- 主 催：** 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
- 後 援：** スポーツ庁
- 協 力：** 公益財団法人 JKA、石川県、珠洲市教育委員会、輪島市教育委員会
- 対 象：** 緑丘中学校全学年（5クラス 計102名）
輪島中学校全学年（8クラス 計242名）
- 時 間：** 1学年毎に連続2コマ（運動50分+座学50分）の授業
1時限目 （08：40～09：30）1年生 運動@体育館
2時限目 （09：40～10：30）1年生 座学@多目的室
3時限目 （10：40～11：30）2年生 運動@体育館
4時限目 （11：40～12：30）2年生 座学@多目的室
5時限目 （13：40～14：30）3年生 運動@体育館
6時限目 （14：40～15：30）3年生 座学@多目的室
- オリンピックプロフィール：** 別紙参照
・荻原次晴先生
・岡里明美先生
・三宮恵利子先生
※2校共に3名のオリンピックが授業を担当します。
- 取材について：**
 - ・運動の時間は、授業に支障のない範囲であればステージ側以外の3方向の壁際から自由に取材・撮影していただいて構いません。但しオリンピックと生徒の間を移動することはご遠慮ください。
 - ・座学の時間は、生徒及びオリンピックが授業に集中できる環境を保つため、動画撮影場所は多目的室後方出入口付近とし、動画撮影時間は授業冒頭（10分程度、その後、機材を廊下へ移動）のみとします。写真撮影についてはその後も多目的室後方から自由に取材・撮影していただいて構いません。動画及び写真撮影共に、廊下や多目的室内を移動しての撮影はご遠慮ください。
 - ・スタッフは指定の場所以外で撮影を行う場合がありますので、予めご了承ください。
 - ・通常授業時と同様の環境を保つため、運動・座学共にフラッシュを使用しての撮影はご遠慮ください。
 - ・授業中にオリンピックが使用する映像や写真、スライド等はオリンピック個人の資料となるため、撮影はご遠慮ください。
 - ・本事業は、換気や用具等の取扱いについて、感染症等拡大防止対策を一部講じて実施いたします。
 - ・当日取材を希望される社は、12月16日（火）13時までに「取材校」「社名」「氏名」「連絡先」を記載いただき、メールにて以下まで送信ください。
送信先：スポーツ振興課 (i-sports@pref.ishikawa.lg.jp)

オリンピック先生



おぎわら つぎはる

荻原 次晴 先生

【スキー／ノルディック複合】

- 生年月日 1969年12月20日
- 出身地 群馬県吾妻郡草津町
- 出身校 草津町立草津中学校－
群馬県立長野原高等学校－
早稲田大学



プロフィール

幼少期から双子の兄の健司氏と共にスキーに親しみ、小学校5年生からスポーツ少年団に所属しスキージャンプ競技を始める。中学校1年時にノルディック複合種目へ転向し、1994年からワールドカップに出場する。同シーズンに開催された世界選手権団体で優勝、ワールドカップでは個人総合4位入賞を収める。1998年長野冬季大会に出場し、団体5位、個人6位入賞を果たす。同年現役を引退。2005年より長きに渡りJOCオリンピック・ムーブメントアンバサダーを務め、オリンピック・ムーブメント推進活動に尽力。2016年にJOCスポーツ賞特別貢献賞を受賞。現在はスポーツキャスターとしてメディアに多数出演する他、ウインタースポーツをはじめ様々なスポーツの普及活動に取り組む。また、アウトドアの活動経験から「次晴登山部」を創設し、日本の百名山登頂に挑む等、幅広く活躍している。

主な成績

<オリンピック競技大会>

1998年	長野冬季大会	団体	5位
		個人	6位

<国際大会>

1995年	ノルディックスキー世界選手権大会	団体	優勝
1995年	FISノルディック複合ワールドカップ	個人総合	4位

<主な活動>

【メディア】

ラジオ 「荻原次晴のニッポン応援団 VIVA JAPON」 ※その他多数出演中

【著書】

「次に晴ればそれでいい」(TOKYO FM出版)

スキー／ノルディック複合

ジャンプとクロスカントリーの両種目の成績によって順位を争う競技。ジャンプのテクニックや経験、クロスカントリーに必要とされるパワーや体力、精神力等、総合的な身体能力が求められることから、本場ヨーロッパではこの種目の王者に「キング・オブ・スキー」という称号が与えられます。



写真：JOC：フォート・キンモト

オリンピック先生



おかざと あけみ

岡里 明美 先生

【バスケットボール】

- 生年月日 1974年7月24日
- 出身地 茨城県行方市
- 出身校 行方市立麻生中学校－
名古屋短期大学附属高等学校
(現：桜花学園高等学校)



2003年 第20回女子アジア選手権

プロフィール

中学校1年生からバスケットボール競技を始め、高校1年時と3年時にインターハイ、国体、ウィンターカップで三冠を達成。卒業後は実業団に所属し、チームの中心選手としてリーグ10連覇に貢献する。1993年から日本代表として活躍し、1996年アトランタ大会への出場を果たす。1998年アジア競技大会で優勝を飾る等、長きに渡り日本女子バスケットボール界を牽引し、2003年に現役を引退。2009年～2012年、Wリーグ日本人女性初のヘッドコーチを務める。現在はバスケットボールクリニックを開催する等、競技の普及や後進の育成に尽力している。

主な成績

<オリンピック競技大会>

1996年	アトランタ大会	7位
-------	---------	----

<国際大会>

1994年	アジア競技大会	2位
1998年	アジア競技大会	優勝

<国内大会>

1993年～2003年	日本リーグ	優勝 6回
1993年～2003年	全日本総合選手権大会	優勝 3回
1999年	Wリーグ	優勝

バスケットボール

1チーム5人ずつで、パス、ドリブル等でボールをつなぎ、相手コートのリングに投げ入れる競技。屋内28m×15mのコートの中で、スピーディーな接近戦を繰り広げます。東京2020大会では、新たに1チーム3人同士で得点を競う「3×3(スリー・エックス・スリー)」が正式種目に採用され、5人制、3人制、それぞれ男女合わせて4種目が実施されました。



2001年 Wリーグ

写真：JOC：アフロススポーツ：川窪隆一/アフロススポーツ

オリンピック先生



さんみや えりこ

三宮 恵利子 先生

【スケート／スピードスケート】

- 生年月日 1974年9月19日
- 出身地 北海道釧路市
- 出身校 釧路市立共栄中学校－
北海道釧路星園高等学校



プロフィール

小学校1年生からアイスホッケー競技を始め、4年生でスピードスケート競技に転向する。中学2年時の全中に於いて500mと1,000mの2種目で優勝。3年時に同大会1,000mで2連覇を達成する。高校1年時、全日本ジュニア選手権500mで優勝、2年時にはインターハイ1,000mで優勝する。高校卒業後は実業団に所属。1998年長野冬季大会に出場し、1,000mで8位入賞を果たす。2001年世界スプリントスケート選手権では日本人女子選手初の総合2位に輝く。翌年のソルトレークシティー冬季大会へ2大会連続出場し、日本代表選手団の旗手を務める。大会終了後に現役を引退。現在は、(公財)日本スケート連盟理事、(公財)日本スポーツ協会副会長を務めながら競技解説や講演活動を行う等、後進の育成や競技の普及に尽力している。

主な成績

<オリンピック競技大会>

1998年	長野冬季大会	500m 11位 / 1,000m 8位
2002年	ソルトレークシティー冬季大会	500m 11位 / 1,000m 17位

<国際大会>

1999年	ISUワールドカップ ベルリン大会 初日	500m 優勝 / 1,000m 2位
2000年	ISUワールドカップ ビュート大会 初日	500m 3位 / 1,000m 優勝
	ISUワールドカップ ソウル大会 第2日	500m 2位 / 1,000m 優勝
	ISUワールドカップ 長野大会 初日	500m 2位 / 1,000m 優勝
2001年	世界スプリントスピードスケート選手権大会	総合 2位

スケート／スピードスケート

スピードスケートは1周400mのリンクでどれだけ速いタイムで滑ることができるかを競う競技です。短距離はスタートダッシュでいかに速くトップスピードに乗り、そのスピードをコーナーワークでの技術により加速できるかどうかキとなります。長距離は、ペース配分をしながら巧みなラップを刻み、粘り強い体力、スケーティング技術を要する種目です。



写真：JOC：青木敏二/アフロスポーツ：築田純/アフロスポーツ